

（色染35年卒）山田英二

- § 1. 序文：童門冬二は既に90歳を超えている老作家ですが、私も今年中に満88歳になりますので、偉大さは足元にも及びませんが、年齢が近い作家である事と、90歳を超えた作家の人生観に興味を抱き、『90歳を生きること』と題する本を読みました。
- その結果、強く共感する文言が幾つかありましたので、座右の銘として記憶したいと思いこの資料を作成した次第です。一部、自分に分かり易い様に、言葉や表現を変えた所もありますが、殆ど原文のまま引用しました。
- § 2. 長い人生だから全て“無事大過なく”過ごせたわけではない。今の世の中で“無事大過なく”過ごせたなんて人間は、振り返ってみて結局“何もしなかった”人間と言う事だ。
- 何かすれば必ず相手を傷つける。傷つけられる。私もそうだ。
- 思い出すだけで、ああ悪かったと思う相手がたくさんいる。
- そこで自分の葬儀の時に、自分の胸像を葬儀場の入口に置いて、私の胸像を（木魚の棒の様なもので）ぶん殴って貰う事を思い付いた。私と関係のあった人で申し訳ない事をした人に最後の鬱憤晴らしをして頂くというアイデアである。
- 【山田所感：この項は、この本の中で一番強く共感した文章です。自分自身の人生を振り返る時、若気の至りと言ったら言い訳になりますが、今思うと「謙虚」である事の大切さを忘れ、強く自己主張したり、喧嘩をしたりして相手を傷つけました。また、知らぬ間に傷つけた事もあった事でしょう。今更手遅れですが深く反省しています！】
- § 3. 日野原重明先生は『講演も健康法の一つ』なのだという。『講演は人前で恥をかく行為であり、恥をかくまいとする努力が血流を良くする』との言い分である。
- 私はこの言葉を金科玉条にして話し（講演）を続けている。
- 【山田所感：人前で話をする機会が多かった課長、部長、工場長、講師時代は、私も自分の使命感から、恥を忍んで話をしてきました。健康法の一つと言うこの考え方を持っていたら、もう少し気楽に話しが出来たと思っています。営業活動や各種会議に於ける勇気ある発言にも適用されるでしょう】
- § 4. 上杉鷹山は、知能と発育に障害のあった妻が素晴らしい絵を描いたのを見て、
- 『なせばなる なさねばならぬ何事も ならぬは人のなさぬなりけり』と感動した。
- 『人間はやる気さえ起こせば、どんな事でもできるのだ』という感動の言葉である。
- § 5. 『最後まであきらめない！』というのが流行語になった。土壇場で奇跡と言ってよい逆転勝利を手にする事によって、この言葉の効果を多くのアスリートが証明した。
- 二宮金次郎なら『天の理（運命）に対する人間の理（努力）の勝利だ』というだろう。
- つまり人間の理は、時に天の理に背くこともあるのだ。この考えは『稲と雑草』についても適用される。天の理は稲も雑草も区別なく平等に育てるが、人間は稲の栄養分を奪う雑草を引き抜く。『天の理は温かいが、人間の理は時には鬼の様に非情になる』という事だろう。
- 二宮金次郎は『人間生活を不幸にする天の理には従わない。拒む』。
- 即ち、『駄目だと思ったら駄目になる』と言う考え方だ（§5.上杉鷹山とよく似た考え方だ）。

【山田所感：“ダメと思ったらおしまい”という考え方に強く共感します。私は常に不可能を可能にすると言う心意気で（プラス思考で）仕事（研究）なりゴルフを楽しんでいます】

§ 6. 私は太宰治の信奉者である。『起承転結』ではなく、『起承転々』が信条である。

『起承転々へ、結なしでストップがかかるまで転がって生き抜くつもり』。

それを支えるのが太宰の言葉だ。太宰の性癖は、次の3つである。

①人を喜ばせるのが何より好き！②微笑もて正義をなせ！③伸びていく方向に陽が当たる。更に次の言葉も好きだ。『青春とは年齢ではない。好奇心と情熱さえあれば、その人はいつも青春なのだ』『たとえ世界の終末が明日であろうと、私は今日もリンゴの木を植える』

§ 7. レイモンド・チャンドラーのミステリー小説『大いなる眠り』の中でマロウの独白を通して『死とは二度と目覚めぬ眠りだ』と教えてくれた。更に『男は強くなければ生きられない。男は優しくなければ生きる資格がない』とも言わせている。うめえこと言うなあー！

§ 8. 孔子は『我十有五にして学に志し（志学）、三十にして立ち（而立）、四十にして惑わず（不惑）、五十にして天命を知り（知命）、六十にして耳従い（耳順）、七十にして心の欲する所に従えども、矩を踰えず（従心）』と言った。自分の年齢に一番近い70歳は『自分の思う通りに行動しても間違いない』と言う意味で、『その年齢に達していれば、当然そうになっているはずだ』と指摘されている様なものだ。残念ながら私はこの期待に応える事が出来ない。

【山田所感：孔子は70歳までしか言及していないが、現在は80、90、100歳に相当する言葉を聞きたいものである。孔子が現在生きていたら何と言うだろうか？敢えて言えば、80歳以上は『無我無心』『悟りの境地』『神様仏様』等の言葉が当てはまるかもしれない】

§ 9. 子貢と言う弟子が師の孔子に聞いた。生涯行う事を一文字で表せましょうか。

孔子は答えた。『それは恕だよ』と。

恕とは『相手の身になってものを考える優しさや思いやりのこと』である。

会社経営であれば、『客の立場に立って経営する事』であろう。

この一文字『恕』は人間生活全般にとって基本となる大切にして貰いたい言葉である。

§ 10. 【あとがき】：童門冬二は代表作・上杉鷹山（上下）を初めとして歴史小説を中心に100冊以上書いている有名な作家ですが、東京都の元局長で、在職中に体験した人間関係と組織学を歴史小説の中で比較考証し、優れた調査能力と共に時代小説に対して新境地を拓きました。『90歳を生きること』は、自分の人生観を、古の名士の語録を引用して分かり易く機知に富んだ文章で解説しており、感銘を受けましたので、忘備録として本資料を作成した次第です。耳慣れた偉人の名言が多く引用されていますが、ご参考になる点が少しでもあれば幸いです。因みに、私の好きな言葉は『運鈍根』と、禅の教え『随処作主 立処皆真』です。

☆最近読んだ本で説得力があった本、勉強になった本、又は面白かった本は以下の通りです。

童門冬二著『誠は天の道なり』～幕末の名補佐役・山田方谷の生涯～

葉室麟著『鬼神の如く』他同著数冊。 磯田道史著『無私の日本人』他同著数冊。

百田尚樹著『影ぼうし』他同著数冊。 山本周五郎著『短編小説集』他同著数冊。

加地伸行著『マスコミ偽善者列伝』続編と2冊。

以上